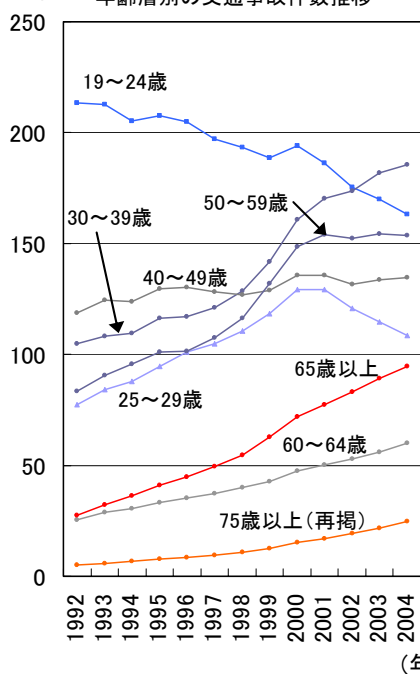


指標：高齢運転者による交通事故件数

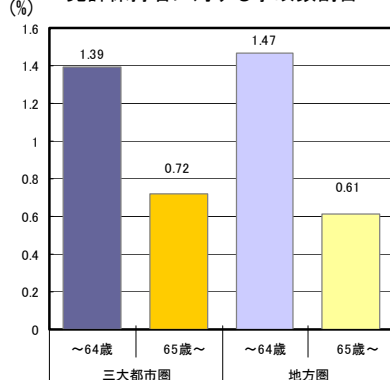
(高齢社会における道路の安全性の動向)

高齢運転者による交通事故は免許保持者の増加に伴って、過去10年で65歳以上が3.0倍、75歳以上が3.8倍と、大きく増加している。これを地域別にみると65歳以上運転者による事件数は、三大都市圏で全国の同件数の約半数を占める。また、65歳以上運転者による事故の類型を16～64歳のものと比較してみると、出会い頭や、右折、左折時のものが多い。

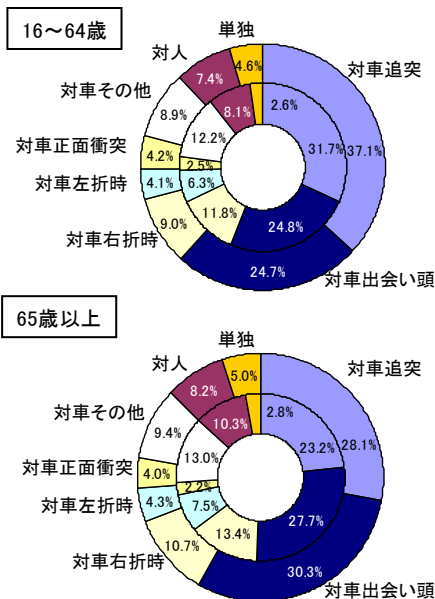
(千件) 年齢層別の交通事故件数推移



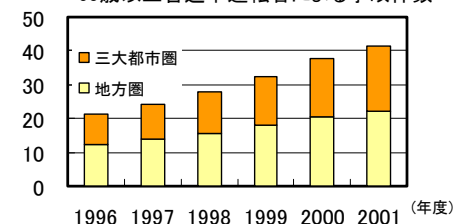
(%) 免許保持者に対する事故数割合



普通車運転者による事故類型内訳(2001年)
(内側：三大都市圏、外側：地方圏)



(千件) 65歳以上普通車運転者による事故件数



(注) 年齢別の交通事故発生件数推移は原付以上運転者の第1当事者による。それ以外の事故は普通車運転者による。三大都市圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県。地方圏：三大都市圏以外の都道府県。免許保持者は第1種大型、同小型の免許保持者合計による。

(出典) 警察庁「H16年中の交通事故の発生状況」、警察庁・国土交通省HP「交通安全マップ」(<http://www.kotsu-anzen.jp/index.html>)、警察庁交通局資料より国土交通省国土計画局作成。